



九月第一土曜日（年號二十八）朝日奈元成ヲ訪フ

元成ハ土州人ナリ其家原

ト門閥ニ係ル先般板垣氏ヨリ東京勤學ノ為メニ差遣セシモノナリ京橋邊ニ在ス

元成性飲酒ヲ嗜

ムヲ以テ勤モスレハ醉ニ乘レ密意ヲ吐露スルヲアリ此

日元成偶然日ク昨年乘吾土州ニ於テ會議セシトアリ

本州人ノ當時官途ニ在ルモノ悉ク皆辭シ去ルヘシ

ト而テ其議ニ左袒スルモノ甚衆シ然レモ亦其議ニ服

セサルモノアリ之カ為メ終ニ行ハレスト云フ又曰ク佐

木一等侍補ハ御巡幸前際ニ甚夕一等侍補タラシ

七月下旬朝日奈
ト初テ旅店ニ同寓
シル來親シク交
際セリ同氏佐木
其他ノ土人大抵知
己ノ様タリ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

ヲ懇望セリ其理由ハ此行連日 主上ト御同車ス
ルヲ以テ機ヲ量リ車中ニ於テ極諫シ御改制向被
遊様御透導可申ノ存意ナリ若シ御採用無之
時ハ断然辭職ノ覚悟ナリト云フ是ニ於テ僕輩問テ
曰ク佐々木氏ハ人トナリ重厚ニシテ文寡シ所謂ル漢
ノ周勃タリ別ニ強カ者アリ之ヲ翼成スルニ非レハ或遺
算ナキ能ハスト朝日奈曰ク此行タルヤ原ト河野敏鎌
ト議セリ二氏ノ交際ハ實ニ膠膝ノ如シ云々又問テ曰ク

此ニテ條ハ可疑姑ク
聽キ得ル俟テ記ス

佐々木氏カ 至尊ニ極諫セント欲スル旨意ハ柳モ
何事ニ係ル乎朝日奈曰ク第一官吏ノ権限第二在
官ノ期年ト外一條ハ之ヲ失念セリ 至尊ニ於テ御
得心被遊其議可ナリトノ勅語アル○上ハ河野等飽
マテ敵旨ヲ遵奉シ之ヲ廟堂ニ於テ論争スヘキナリト
蓋シ是迄長薩肥ノ権官樞要ニ横ハリ敏鎌等ノ
建議ハ都テ中間ニ在テ取消スヲ以テナリ云々又曰
ク佐々木河野等ノ意ハ畢竟井上聞多ノ如キ殆

ント狂豎ヲ以テ目スヘキノ人物ヲ以テ要路ニ登庸セ
ラレシヲ時ニ遺憾ニ思ヘルナリ云々（僕歸後）此申テ急ニ書ヲ
作り杉本檢事ニ逢ヒ之ヲ示ス杉本愕然曰ク余ハ
直ニ大木公ニ示スヘシ貴君モ亦公ニ面謁シ吳ヘシト云
ヘリ然レモ僕未タ公ト一面識アラサルヲ以テ之ヲ辭シ若
シ公ヨリ御下問アラハ即チ御答可申旨陳シ置キ歸家
セリ（僕終ニ大木公ヲ訪ハス迄テ）翌日（侍從）米田虎雄ヲ訪フ（依）
木氏ト同省僕徐ロニ問テ曰ク佐々木氏ハ如何ノ人物
ナルヲ以テ（其事）探ルタム

ナル乎米田曰ク忠良誠實ノ人ナリト甚タ其人トナリ
ヲ稱揚セリ時忽チ賓客（來）リ談話遂ニ止テ辭シ歸
リ途上杉本氏ニ過リ書ヲ以テ昨日呈セシ所ノ書ハ
誤聞ニ出ルヲ以テ取消シ吳ニ丁ヲ乞ヘリ蓋シ米田ノ
話ニ佐々木氏ハ忠良誠實ナリト云フヲ以テ（朝日奈カ言フ所）相違アララズテ
翌再ヒ米田ヲ訪フ談次驚クヘキ言アリ（一等侍補）希望云々云
乃チ辭シテ大田黒惟信ヲ訪フ（時九月八日今戸橋場）町三番地ニ住ス
米田虎雄（カ）談話大略ヲ陳ス惟信（亦其言ヲ若揚ナラサルニ驚キ）曰ク余モ

亦速ニ往テ其意ヲ探求スヘシト即チ馳テ米田ヲ訪ヒ
酒間佐佐木氏侍補ニ轉セシ所以ニテ問フ米田
乃チ應シテ曰ク以下皆米田氏ノ談話及ヒ木氏轉任ノ発端
及ヒ竹橋暴挙ノ夜大臣ノ挙動等ヲ説ク
佐々木氏一等待補ヲ懇望スルノ始ニ方テ吉井モ
大ニ其轉任ヲ拒ムノ意アリ且ツ宮内ニ於テモ頗ル議
論ヲ生セリ然ルニ巡幸ノ期ニ臨ミ吉井ハ大ニ佐々木
ヲ信用スルノ意ヲ見ハセリ云々又曰ク宮内ハ金庫
甚タ富メルヲ以テ華族等追々拝借ヲ願フモノアリ

又窮華族ハ救助セサルヲ得サルノ論ナリ其全権ハ
岩公之ヲ握レリ杉孫七郎兎玉愛次郎水戸人ニシテ
口ニ正義ヲ唱テ
等之ヲ周旋セリ而シテ假令ハ金三万圓ヲ貸ル者
アレハ即チ二万圓ヲ下附シ一万圓ハ其歸處ヲ知ラス
出納甚タ怪クヘシ他日精算ノ時恐クハ一大混雜ヲ
生スヘシ云々又曰ク 主上ノ御性質ヲ察スルニ堅執容
易ニ移リ難キノ御氣象アリ恰モ今戸公ノ如シ細川
侯ノ隱居今戸ニ任セラレリ
又御聰明ナルハ護久君ノ比
人ヲ指スナリ

二非ス(細川侯ヲ指ス)宮内卿徳大寺君ハ嘗テ愚人ノ如ク
 二被思召御輕蔑ノ模様アリ然レモ不良ノ人物ト
 ハ決テ不思召欲ト窺ヘリ又曰ク佐々木氏ハ
 主上如何程堅ク御執柄被遊トモ知テ言ハサルナ
 ク謀テ悉クサルナキカ如シ是ニ於テ稍御信用
 ノ様ニ窺ヘリ吉井氏モ今日宮内ノ事ハ一ニ佐々木
 ニ非サレハ行ハレ難シト信セリ之カ為メ交際モ漸ク
 始ト異リアルカ如シ云々又曰ク竹橋ノ變起ルヤ大藏

米田氏カ竹橋暴舉ノ件
 二付諸參議奉
 動ヲ説クハ甚々
 信シ難キ事ト云
 聖言スル為メニ言
 フ故唯聽キ得
 タル終ヲ記スノミ

卿ハ屋後ノ小川ヲ渡リ直ニ岩倉公ニ至ル衣袂皆
 濕霑シ衣服ヲ公ニ借リ七字比參朝スト伊藤公
 一且單騎陸軍省へ至リ而シテ家眷財物ヲ顧
 慮セシカ直ニ歸家ノ後再ニ陸軍省へ趨キ同ク七
 字比參朝岩倉公頗ル御狼狽ノ風評アリ寺島
 公ハ遂ニ不參トノ事是時 主上ハ衆參議參内
 ノ遲緩ヲ大ニ御逆鱗被遊サレシトノ事宮内へ第
 一ニ馳付タルハ吉井山田ノ二人ノミ大隈公ハ翌日御

前ニ於テ宣告文ヲ讀ムニ聲顫キ讀了ス能ハス野
津大佐代テ之ヲ讀了スト云兼テ主上ノ御言ニ王
政復古ノ事ハ薩長肥土ノ盡力許多ニ居ル故ニ
朕モ幾分カ是迄四藩ニ一歩ヲ讓レリ然レモ皇統
ノ隆替ト民衆ノ疾苦トニハ換ヘ難シ依テ朕ハ拱手
シテ諸大臣ノ措置勘考中ナリト仰セアリシ云以上

米田虎雄ノ内話

大田黒カ聴キ取りタルヲ僕輩ニ告クル所ナリ

右ノ件々僕輩カ聴キ得ル儘ヲ記取セリ後日
如何ノ究訊ヲ蒙ルモ確保仕候也

松岡守信記

莊村省三

明治十一年十月

